



# あおもり 町連だより

## 第189号

平成23年7月発行

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584  
FAX 017(734)2587

### 23年度 定時総会

## 連絡調整と福祉活動強化へ

### 事業報告など全議案を承認

青森市町会連合会は、5月27日（金）午後1時から市文化会館で平成23年度定時総会を開き、291人が出席、全議案を原案通り承認しました。

総会は鳴海國雄常任理事が司会を務め、佐藤俊雄副会長が開会を宣言。物故者・東日本大震災犠牲者に黙祷をささげたあと、加川幸男会長があいさつ（2面に要旨掲載）、明るく住みよい街づくりを目指して、行政、地域協議会、地区連合町会、単位町会の連絡調整の強化と支援、安全・安心な地域づくりのための福祉活動の強化に取り組むことを強調しました。

次いで、長年町会運営に貢献して退任した町会長35人と優良町会員161人を表彰（3面に掲載）、受賞者を代表して加藤光三氏（松元台町会）が謝辞を述べました。

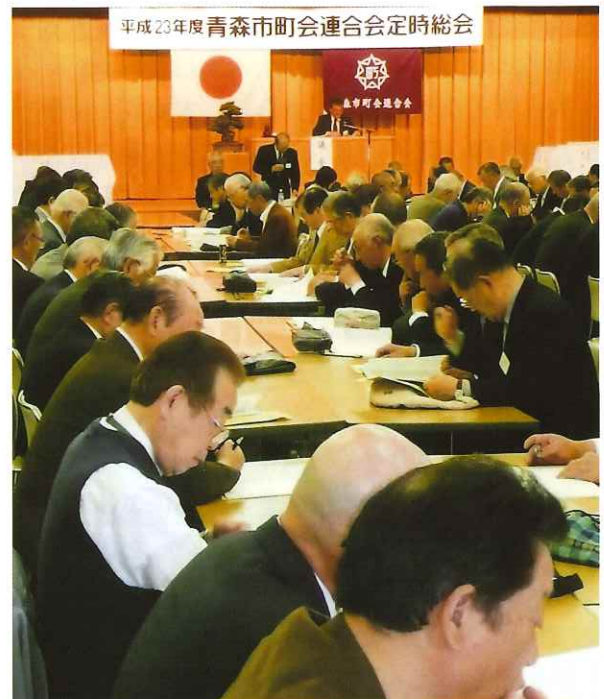
引き続き来賓の鹿内博市長、仲谷良子市議会副議長、鈴木一司青森警察署地域官（署長代理）から、各町会長が住民の安全・安心のため尽力され



事業報告する部会長

ていることに敬意を表し、各町会、市町連の一層の発展を祈念するあいさつがあり、浪岡町内会連合会の野呂一則会長が紹介されました。

この後、館山義光常任理事を議長に選出し、議事に入りました。



事業計画など審議した定時総会

議案の22年度事業報告について各部会長が報告、22年度収支決算等について須藤雄樹事務局長が報告した後、出席した町会長から①青森市の防災組織率が24.7%と低迷している原因、入内活断層についての見解②職員の昇給、健診等の状況（2面へ続く）

#### 紙面紹介

- 2面 会長あいさつ要旨
- 3面 退任町会長と優良町会員を表彰  
23年度事業計画
- 4面 福祉部会町会役員研修会
- 5面 環境部会町会役員研修会
- 6面 頑張っています（雲谷町会）  
浅虫海岸清掃（浅虫町会）



## 会長あいさつ要旨

平成23年度の定時総会開催にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

本年は、新年順調なすべり出しと思われましたが、1月長く降り続く大雪に見舞われました。3月に入り春の兆しが見え始めた中、11日、マグニチュード9という世界最大クラスの大地震が発生、続く大津波の襲来で死者・行方不明者2万4千人を超える未曾有の大災害となりました。さらに、大津波が誘発した福島第一原子力発電所の事故が被害を増大させました。多くの犠牲者の皆様に深く哀悼の意を申し述べますとともに、罹災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

青森市町会連合会は5月1日現在、加入町会が374町会・自治会となっております。

私どもを取り巻く地域社会は、少子・高齢化、核家族化といった生活基盤の変化により地域住民間のつながりが希薄になるといった状況にあります。地区連合町会との連携強化を図り、もって市民の自主的な活動と行政との協力により地域交流を広げ、明るく住みよい地域づくりを目指してまいりたいと考えております。

このような状況のなかで町会長の皆様には、地域のリーダーとして「交通安全・防犯」「ごみの分別指導」や「環境美化」など多様なコミュニティ活動に取り組み、住民の安心・安全と支え合い、助け合いのある住みよい地域づくり



## 創意工夫・経費削減して運営

に、多大なご苦勞とご尽力されていることに対し、心から敬意を表します。

また本日は、長年にわたって町会長として活躍され、このたび退任されました皆様と、町会内で模範的な活動をされました町会員の皆様为荣えある表彰を受けられますが、受賞される皆様のご功績とご苦勞に心から敬意を表しますとともに、今後ともご健勝でご活躍くださるようお願いいたします。

本日は、事業報告、決算、事業計画、予算などをご審議いただきますが、ご審議いただくにあたり、私の基本的な方針を申し述べたいと思います。

青森市町会連合会は、「町会活動の活性化支援」を基本方針に掲げ、皆様のご理解とご協力により、「安心・安全で、支え合い、助け合いのある住みよい地域づくり」を目指して諸事業に取り組んでまいりました。平成23年度も、この方針のもとに「明るく住みよい街づくりを目指した行政並びに地域協議会、地区連合町会、単位町会との連絡調整の強化と支援」及び「安全・安心な地域づくりのための福祉活動の強化」などに取り組むほか、運営にあたっては創意工夫し、経費削減を図ることに意を用いながら、諸事業に取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をいただきながら、厳しい財政状況を乗り切ってまいりたいと考えております。また、各事業部会活動を中心に諸事業に取り組み、町会連合会の使命と責務を果たす決意であります。皆様の一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

最後に、それぞれの町会の発展と、皆様のご健勝ご活躍を祈念いたしまして、ごあいさついたします。

③環境保全の取り組み④冠婚葬祭合理化の取り組み経緯—について質問があり、各担当部会長が検討を約束した後、原案通り承認しました。

次いで、23年度事業計画、収支予算等について審議に入り、出席した町会長から、東日本大震災での巨大津波の教訓から、津波警報発令時の避難方法等について提案があった後、原案通り承認しました。

その他、表彰規程に該当する退任町会長が今回表彰から抜けている件についての指摘、優良町会員へ総会前に表彰状、記念品が届けられている件で気持ちのこもった表彰方法について検討の要望がありました。

最後に、加川会長が、東日本大震災被災地へ市町連からの義援金の募金を提案し、1町会3千円の拠出を要請しました。



おめでとうございます

## 退任町会長と優良町会員を表彰

市町会連合会は、表彰規程に基づき23年度総会で町会長と退任した35人と優良町会員161人を表彰しました。(敬称略)

### □20年以上勤続し退任

細川千代太郎(巖懸)有馬俊悦(八雲)故・原田一紀(江渡上)木下清(板橋)加藤光三(松元台)横濱常蔵(大工町)故・齊藤慈徳(八甲町)

### □5年以上20年未満勤続し退任

齊藤聖人(八幡林)横内幸男(宮田)佐藤輝夫(馬屋尻)故・田村正信(南佃)齊藤博志(唐橋)故・佐々木幸雄(月見野)川村悦美(戸山が丘)柿崎純吉(沖館第三)葛西順一(富田ふれあい)佐藤正弘(西滝)浅利徳弘(孫内)手塚治(西近野)大塚洋二(ロイヤル鳴滝)鎌田



退任町会長を代表し表彰を受ける加藤氏

武光(高田)大柳博(入内)故・小山内定治(協和)加藤隆治(南旭町)鈴木昭良(北金沢)田辺勝昭(金浜)大森富二男(八甲田大橋)神静司(東桜川)大森喜久男(南信用町)津川静夫(若宮)藤田匡(油川仲町)浅利繁雄(新井田)瀬戸修三(博労町)中田純一(堤橋)故・藤田三郎(勝田第二)

□優良町会員 = 内海貞子(石江江渡中)ほか160人

## 明るく住みよい地域へ

### 23年度事業計画

#### 基本方針

少子高齢化、核家族化といった生活基盤の変化により、地域住民間の繋がりが希薄になってきている状況にあります。このような状況の中、市町会連合会は組織体制の改革により進めている部会活動を各地区連合町会及び関係団体と連携し、更に機能を強化すべきと考え、もって市民の自主的な活動と行政との協力による地域交流を広げる活動により、明るく住みよい地域づくりを目指した活動を推進します。

#### 重点目標

- (1) 明るく住みよい街づくりをめざした行政及び関係団体との連絡調整の確立
- (2) 地域協議会、地区連合町会、単位町会との連絡調整の強化と支援の実施
- (3) 安心・安全な地域づくりのための交通安全・防犯・防災活動の啓発の推進
- (4) 地域づくりのための福祉活動の推進
- (5) 生活環境づくりのための環境美化及び省エ

#### ネ活動の推進

#### 総務部会

- (1) 会の運営に関する事業の推進
  - ①各部会との連絡調整
  - ②行政及び各機関との連絡調整
  - ③広報「町連だより」の発刊
- (2) 各地区協議会、地区連合町会との連絡調整、地域活動の支援
- (3) 各研修会の開催
  - ①市政懇談会
  - ②新任町会長研修
  - ③理事・部会員研修
  - ④青函ツインシティ交流研修会

#### 地域振興部会

- (1) コミュニティ活動の活性化促進
- (2) 街路灯等の設置要望
  - ①各単町会の街路灯の設置及び修繕等の要望の取りまとめと行政への要望活動
  - ②各単町会の道路舗装・側溝整備の要望の取りまとめと行政への要望活動
  - ③雪処理事業の充実促進
  - ④災害に強いまちづくり事業の推進

(4面・5面へ続く)



## 赤十字事業など学ぶ

### 福祉部会町会役員研修会

福祉部会は1月20日(木)、県民福祉プラザホールで「地区社協役員構成と個別単体組織の事業役割」と「赤十字事業」をテーマに研修会を開き、出席した約130人が福祉問題に取り組む組織の目的・役割などを学びました。

はじめに、青森市社会福祉協議会の秋元武磨常務理事=写真①が、地域での福祉問題・ニーズの解決に向け協力して取り組んでいる、市内5つの組織①市町会連合会(37地区374町会)②市民生委員児童委員協議会(37地区、浪岡5地区、658人)③市共同募金委員会(38地区、浪岡含む)④日本赤十字青森市地区(37地区分会、浪岡分区)⑤市社会福祉協議会(38地区、浪岡支部)―それぞれの目的、役割について説明。とくに民生委員、共同募金について、実例を交え実情や必要性を説き、引き続き町会の協力を求めました。



出席者から、社協の財源などについて質問があり、秋元常務理事が、社協は社会福祉法人で法務局に登記、給与等は行政からの補助と委託事業からの収入で賄っていると話しました。

続いて、日本赤十字青森県支部組織振興課の一戸秀彰課長=写真②が、赤十字県支部の事業を説明。赤十字社員の社費と寄付金の使いみちとして①社会福祉向上のための奉仕活動や青少年の健全育成(27%)②国内外の災害救援、開発援助や救護班の養成(12%)③日赤本社の活動(13%)



②一などを紹介し、新たな赤十字社員の確保に、町会の理解と協力を訴えました。

次に、市健康福祉政策課の小笠原敦司主幹=写真③が23年

度社員増強・社資増収運動の実施計画を説明。①運動期間は平成23年2月1日から24年1月31日②青森市地区の目標額3億998万7千円③重点項目④推進策⑤運動期間中の町会での活動についての一などを挙げて、協力を呼びかけました。

質疑では、出席者から①運動期間が2月1日―1月31日の理由は②社員、社費、社資など赤十字の分かりにくい用語を変えられないか③赤十字に対する住民の理解がないと運動は進められない。分かりやすいPRなどで町会の活動を支援



してほしい④会計年度は4月―3月。2月―3月分の会計処理は⑤町会の高齢化率が高くなり、民生委員が対応する家庭が増えている。民生委員も高齢化しているが、新たな引き受け手も少ない。対策が必要―など質問や要望が出されました。これに対して一戸課長、小笠原主幹が①運動期間の適切な時期を以前から検討しているが、地域によって考え方が分かれている②地方としての意見として赤十字本社へ提言する③町会に出向くなどして赤十字のPRに努めたい④特別会計で2月―3月分は預かり金として処理している⑤現状を認識しているが、なかなか方策が出てこない実情にある―と理解を求めました。

### 交通・防犯部会

- (1) 安心で安全なまちづくり
  - ①交通安全運動の推進
  - ②高齢者と子供を守る運動の推進
- (2) 各機関、団体との連携による事故防止啓発
  - ①交通安全協会事業と連携した活動の推進
  - ②暴力追放運動団体等と連携した活動の推進
  - ③交通安全・防犯のぼり旗の斡旋

### 環境部会

- (1) 快適な環境のもとでの生活と清潔なまちづくりの推進
  - ①ごみの減量化と資源再使用の推進
  - ②クリーン作戦等の実施と地域清掃活動の推進
  - ③花いっぱい運動の推進
- (2) 行政、団体との連携による環境啓発活動の



## 集団回収を進めよう

### 環境部会町会役員研修会

環境部会は2月3日(木)県民福祉プラザホールで市の清掃管理課の職員を講師に、古紙、びん、缶、鉄、古布など資源物の集団回収の進め方について研修、集団回収を実施している野木町会の櫻田文信町会長が事例発表しました。

研修会には約120人が参加、はじめに久保卓也主事が、平成21年度の集団回収の実績(青森地区223団体、回収量4,485トン/年。浪岡地区17団体、回収量338トン/年)を紹介、集団回収の効果として①ごみ減量化と資源の有効活用②環境、リサイクルに対する住民の意識向上③子どもの環境教育などを挙げた後、回収の進め方として①回収の意思、目的を確認②回収品目、場所、方法、業者、日時、役割分担を決める③市の奨励金交付を受けるため市清掃管理課へ登録—など具体的に説明しました。そして成功の秘訣として①役割分担の住民に負担の少ない仕組みづくり②回収量・収益を住民に公開③成果を住民へ還元—などを挙げ、成功事例として桜川団地町会、浪岡地区平川町内会の活動を紹介します。

ついで、金沢典子主事が、市の集団回収団体と集団回収量の増加を図るため



説明する市職員  
集団回収について

平成22年11月に組織した「集団回収運動部会」について、活動計画や集団回収に関する出前講座など啓発事業を説明。また、海岸の清掃活動に取

り組んでいる「きれいなむつ湾を取り戻す地域協議会」の活動を紹介しました。

質疑では①古布の集団回収をしたいが業者が見つからない②集団回収運動部会は市の組織か③市が昨年作った「ごみ分別事典」を市民に配布する計画は④缶、ペットボトルなど行政回収の後、回収容器の整理整頓をしてほしい—と質問、要望があり、横山明典主幹が①1社ある②運動部会は町会・団体が設立した「青森市ごみ問題対策市民会議」の中に昨年結成された③毎戸配布を検討したい④委託業者に周知徹底したい—と回答しました。

次いで、事例発表に立った櫻田町会長=写真=は「町会は現在62世帯、古紙類の集団回収を昭和60年から毎週土曜日に実施。約半数の世帯が参加、年間約3万円の収益があり、収益の3割をごみ袋で還元している」と野木町会の取り組みを紹介し、また、集団回収運動部会会長の立場から「青



森市のリサイクル率は県平均、全国平均にくらべてかなり低い。回収すればお金にもなる。半数の世帯の参加ぐらいを目標に、古紙類などや

りやすいものからはじめれば無理なくできる。住民も協力してくれる」と集団回収への協力を訴えました。

質疑では①行政回収と集団回収の割合など実態は②業者がチラシを配り戸別回収しているが、これが徹底すれば行政回収、集団回収も不要になるのではないかと③ごみをどう減量するかが大事。市民のごみの出し方にも問題があれば、燃えるごみに古紙類は入れないなど周知する必要がある—など質問、意見がありました。

#### 推進

- ①市等が行う環境啓発事業への参加、協力
- ②廃棄物不法投棄の通報協力

#### 福祉部会

- ①行政が行う住みよいまちづくりへの参加
- ②地域ネットワーク活動推進事業の促進
- ③町会等が行う福祉事業の支援並びに地域づくり事業の推進

#### ④災害時要援護者支援運動

#### 女性部会

- ①役員研修会の開催
- ②有価物資源回収事業の推進及び環境美化運動への協力
- ③健康診査の受診勧奨促進及び行政との連携と協力
- ④町内女性の集いの開催



## 頑張っています

### 恒例のクリーン作戦

雲谷町会（館山義光町会長・80世帯）は5月8日（日）、町会クリーン作戦を実施、空き缶、ペットボトルはじめ廃タイヤ、テレビなど大量のごみを回収しました。



山林の粗大ごみも探して回る参加者

観光ルートの十和田北線が貫く同町会は、毎年沿道に空き缶、ペットボトルが散乱、また町内の山林に粗大ごみの不法投棄が絶えないことから、10年前にゴールデンウィーク最終の日曜日は町内クリーン作戦の日と決め、環境美化に取り組んできました。

この日は、町民のほか町内にある芙蓉会病院

雲谷町会

の職員も加わり120人が参加。雲谷ヒルズから青森公立大を含む広い範囲を、9時半から4班に分かれ、可燃ごみ、不燃ごみに分けて回収をしました。今年も山林には廃タイヤ、テレビなどが小型トラックで運びきれないほど投棄されていました。約2時間で、一時集積所をあふれるほどのごみが集まり、処理は市にお願いしました。

毎年ごみを回収しても、いちごっこで、ごみの投棄が絶えません。一部の心ない行為でたいへんな迷惑がかかっています。

活動後は、公民館でこれも恒例の「観桜会」を開いて、町民の懇親を深めました。



仮置場をあふれる粗大ごみの一部

## きれいなむつ湾取り戻そう

### 海岸清掃に310人参加

— 浅虫町会

浅虫町会は4月17日（日）、青森観光コンベンション協会浅虫支部、きれいなむつ湾を取り戻す地域協議会と共催で浅虫海岸の清掃を行いました＝写真。



当日は強風、低温の悪天候にもかかわらず、町民、浅虫中学校の生徒、教師はじめ、きれいなむつ湾を取り戻す地域協議会の久栗坂町会、野内町会の町民、青森市民ら計310人が



参加しました。清掃を終えた後、参加者には、温かいそば、うどんがふるまわれ、浅虫温泉のホテル・旅館の入浴券が配られました。

## 哀悼録

浜館町会長 工藤 繁一 殿  
（平成23年6月5日ご逝去）  
相野第一町会長 小林 肇 殿  
（平成23年6月21日ご逝去）  
慎んで哀悼の意を表します。

## 編集後記

人知を超えた地震・津波・原発事故で多くのことを思い知らされました。万全なものはないこと。社会はみなつながって成り立っていること。ふつうの暮らしのなんとありがたいこと。そして人と人とのつながりの大事なこと。被災を最小限に食い止めるのは、まずは隣近所との助け合いです。各町会で自主防災組織の設立、見直しが進んでいます。生活が地域や個人とのかかわりを避ける個人中心型になってきているといわれますが、いまこの生活、意識を少し見直すことも求められているように思います。安全安心の向上には、お互いの協力が欠かせないからです。（千）